




平成28年度水稻生育診断予測事業速報No.3 (早植栽培6月22日調査結果)

平成28年6月24日
栃木県農政部経営技術課

 **出穂は平年より5日程度早まる見込。**
 **今後は間断かん水を継続する。**
 **イネ縞葉枯病の防除を徹底する。**

1 気象概況<<6月上旬~中旬(宇都宮)>>

6月上旬~中旬の平均気温は平年より0.8~1.7℃高く、4月中旬以降、平年より高い状態が継続している。降水量は、6月上旬が平年比4%、中旬が110%で6月としては平年より少ない。日照時間は、6月上旬が平年比110%、中旬は143%と、5月中旬以降多照傾向が継続している。関東甲信地方の梅雨入りは6月5日頃で、平年より2日早く、昨年より2日遅かった。(【参考】梅雨明け：平年7月21日頃、昨年：7月21日頃)

2 調査結果<<早植栽培、品種：コシヒカリ>>

(1) 全体の生育(16か所平均)(表1、図1~2)

草丈は長く(平年比106%)、茎数は平年より少ない(92%)、葉齢は0.2多く、葉色は0.3淡い。葉齢から判断して、生育は1~2日程度進んでいると考えられる。生育診断値(葉色×茎数)は平年比87%と小さい。

(2) 分施肥体系の生育(10か所平均)(表1、図1~2)

- ア 草丈は54.0cmで平年比107%と長く、茎数は514本/m²で平年比91%と少ない。
- イ 葉齢は10.1葉で平年より0.3葉多く、葉齢から判断すると生育は2日程度進んでいると考えられる。
- ウ 葉色は4.3で平年より0.2淡い。
- エ 葉色×茎数値は2,200で平年より小さい(平年比87%)。
- オ イネドロオイムシが4か所で確認されており、発生程度が高い地域も見られる。

(3) 全量基肥体系の生育(6か所平均)(表1、図1~2)

- ア 草丈は52.9cmで平年比104%とやや長く、茎数は486本/m²で平年比95%とやや少ない。
- イ 葉齢は9.8で平年より0.1葉少なく、葉齢から判断すると生育は平年並と考えられる。
- ウ 葉色は3.9で平年より0.4淡い。

エ 葉色×莖数値は1,873で平年より少ない(平年比85%)。

オ イネドロオイムシが3か所で確認されており、発生程度が高い地域が見られる。

(4) 地温の推移【農業試験場調査】(図3-1~3-2)

前回調査(6月9日)以降、気温、地温とも平年よりも高めに推移しているが、6月第3半旬以降に気温が下がったことから、地温も一時低くなった。

3 出穂期予測

(1) 幼穂分化期(農業試験場(宇都宮市)、6月23日現在)(表2)

ア 「初星」は6月20日で、平年より1日早い。

イ 「なすひかり」、「コシヒカリ」及び「とちぎの星」は幼穂分化は確認されていない。

表2 水稻品種の幼穂分化期(6月23日現在、農業試験場)

	初星	なすひかり	コシヒカリ	とちぎの星
本年	6月20日	未確認	未確認	未確認
平年	6月21日	6月24日	6月29日	7月1日

(2) 6月23日現在の出穂期予測(表3、図4-1~2)

移植(5月4日)~6月22日までの積算平均気温は、宇都宮市では1,018.5℃と平年より108.3℃高く、大田原市では963.2℃と平年より97.8℃高かった。

今後、平均気温が平年並で経過した場合、平均気温から算出した生育ステージ(DVS値)により、早植コシヒカリ(5月4日移植)の出穂期は表3のとおりである。これによると、宇都宮市、大田原市とも平年より5日程度早いと推定される。

表3 DVSによる出穂期予測(6月24日現在、早植コシヒカリ(5月4日移植))

	今後の平均気温(平年との比較)		
	1.5℃高く経過	平年並	1.5℃低く経過
宇都宮市	7月27日~28日	7月27日~28日	7月27日~28日
大田原市	7月30日~31日	8月1日~2日	8月5日~6日

4 技術対策

(1) 水管理

目標とする莖数はほぼ確保されている。生育診断値が平年より小さいので、強い中干しは行わず、追肥までは間断かん水を継続して葉色を維持する。また、移植から湛

水状態を継続しているほ場では、早急に間断かん水を実施する。ただし、施肥体系、地域により生育にばらつきがあるため、生育診断値が指標値を上回っている場合は、今後の天候を加味すると、中干しを実施して診断値を適正範囲内に収めることが必要と考えられる。

気象庁地球環境・海洋部発表（平成 28 年 6 月 10 日）の「エルニーニョ監視速報」では、エルニーニョ現象の終息、夏の間にはラニーニャ現象の発生も予想されている。また、平成 28 年 6 月 23 日発表の「関東甲信地方 1 か月予報」（6 月 25 日～7 月 24 日の天候見通し）では、“平年同様曇りや雨の日が多い”とあり、向こう 1 か月の平均気温は高い確率が 50%と予想されている。冷害の可能性は低いと考えられるが、低温になった場合に深水管理ができるよう、畦畔の漏水チェック等、今のうちから準備を進めておくことも重要である。

なお、渡良瀬川では 6 月 11 日から 10%の取水制限が実施されており、25 日から 20%の取水制限が予定されている。鬼怒川では 6 月 16 日から 10%の取水制限が実施されている。早植栽培では、分けつ盛期～最高分けつ期になっており、必要とする水量は少ない。用水管理者や地域で協議し、水系毎に番水方式の実施や普通植の活着期のほ場を優先的にかん水するなど、効率的な利水に努める。

(2) 加里の追肥

加里は、デンプンの生成、同化産物の移行、根の活性化に重要な働きをする。茎葉中に加里が多いと、稈の強度が高まり倒伏を少なくする効果が期待できる。特に、分けつ盛期以降は加里濃度が低くなるので、出穂前 40～45 日頃に積極的に加里（成分で 4～5 kg/10a）を追肥する。

なお、葉色が淡くても窒素成分による「つなぎ肥」は基本的に施用しない。

(3) 病害虫の防除

ア イネ縞葉枯病

農業環境指導センター発表（平成 28 年 6 月 17 日）の「平成 28 年度 病害虫発生予報第 3 号」によると、イネ縞葉枯病の発生量が「多い」と予想されている。今回の調査では、小山市で発病が確認されている。当該地域では、ウイルスを媒介するヒメトビウンカに対して有効な剤を使用し、地域ぐるみで防除（箱施用剤の使用＋本田での薬剤散布）を実施する。

イ いもち病（葉いもち）

農業環境指導センター発表（平成 28 年 6 月 17 日）の「平成 28 年度 病害虫発生予報第 3 報」によると、葉いもちの発生予想は「少」である。BLASTAM (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/data/Blastam/2016.htm>) による葉いもち感染好適条件判定結果では、6 月に入って感染好適条件が出現し始めている。常発地域、箱施用剤を使用していない地域では、ほ場を良く見回り、早期発見・早期防

除に努める。なお、いもち病の防除は、発生前の予防剤（粒剤）施用が効果的である。また、いもち病の発生源となる取置き苗は早急に処分する。

ウ 斑点米カメムシ類

高温、少雨の条件下では、斑点米カメムシ類の発生は多くなることが予想され、斑点米の多発を招く恐れがある。

本田内の除草及び水田周辺の草刈り（水稻の出穂2～3週間前と出穂期頃の2回）を行ってカメムシ類の発生しにくい環境を整えるとともに、穂揃い期に斑点米カメムシ類が水田内に確認できる場合は薬剤防除を行う。

エ ニカメイチュウ

心枯茎が目立つ場合には、第2世代幼虫の防除が必要である。6月下旬に、ほ場当たり任意の25株を見取り調査して、葉鞘変色茎の発生株率が20%以上の場合は、防除を行う。

※ 薬剤（登録農薬）はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)



気象災害による農業被害を未然に防ぐため、
技術対策情報が 携帯電話等に直接メール配信される
「とちぎ農業防災メール」のご登録をお願いします！

併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される
「栃木県防災メール」のご登録をお願いします！



↑「とちぎ農業防災メール」
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」
仮登録はコチラから

～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使しましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！

7月21日に、農薬危害防止研修会を開催します（13:30～とちぎ福祉プラザにて）
お申込み・お問い合わせは、栃木県農政部経営技術課 電話 028-623-2286